

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700450		
法人名	企業組合巣南グループホーム		
事業所名	企業組合巣南グループホーム		
所在地	岐阜県瑞穂市古橋1357番地1		
自己評価作成日	平成25年9月18日	評価結果市町村受理日	平成25年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2170700450-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年10月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

代表者夫婦はもちろん職員の多くがこの地域で生活している者で、住み慣れた地域の中でその地域の方々とのふれあいを大切に、祭りや運動会の行事に自然に溶け込み参加することができます。ホームの前の畑で採れた新鮮な野菜や自家製のお米が毎日の食卓を彩ります。1ユニットで入居者や職員の変動も少なく大家族のようにいたわりあい生活できます。ホームにはご家族や地域の方が来訪され一緒にお茶を飲み話をしたり穏やかな生活の中ゆったりとした時間が流れていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が、住み慣れた地域で、家族のような生活を営み「ただいま、お帰りなさい」と声をかけ、だれにも気兼ねなく、安心して生活ができるように支援をしている。地元の知人や親戚が気軽に立ち寄り、楽しい時間を提供している。職員は、利用者がこれまで培ってきた地域との関係を大切に、当たり前な暮らしを支え、家族の理解と協力を得ながら、いつまでも長く、いたわりあいの生活が続くように取り組んでいる。そして、職員の専門技能の向上を目標に、働きやすい環境を整備し、定着率のよいホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員はホームの特徴にあった独自の理念を掲げ共有し、介護に生かすべく努力している。	「ただいま、お帰りなさい」の言葉かけを理念とし、地元住民と共に日常生活を送ることのできる支援をしている。職員の目にとまりやすい場所に理念を掲示し、また、職員会議で理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園児が年4～6回程度来訪して下さり歌や演技を披露してくれる。また、保育園や小学校行事にも参加させてもらっている。散歩時には地域の方と会話を楽しみ、演芸鑑賞会等には地域の方々を招いて一緒に楽しんでもらい交流している。	町内会に加入し、地元の行事や清掃作業、班の寄り合いなどに参加している。保育園や小学校からは、運動会や行事の招待状が届けられている。保育園児の定期的な訪問があり、利用者と楽しく交流している。	利用者が地域の「ふれあいサロン」に出かけ、地元の人々と、交流の輪が広がるように期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年行う介護教室の中で認知症サポーター教室を開催し、認知症の人の理解や支援の方法等地域の方々と一緒に学び支援協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の多くの方々に参加していただき入居者の状況やホームの取り組み等を報告し話し合い、いろいろな意見や情報をサービス向上に活かしている。	会議は、2ヶ月ごとに開催し、自治会長、民生委員、近隣住民、行政が参加している。運営報告と行事の協力を提案している。毎回、地域住民との交流をテーマに話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただきホームの意向やケアサービスについて伝え、意見やアドバイスをもらい介護に取り入れている。また、毎月介護相談員の来訪を受け交流している。	市とは、困難事例で相談したり、法改正についての指導を受けている。日常的に、電話や訪問をして、情報を交換している。行政主催の会議や研修会へは、積極的に参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自覚していない拘束が行われていないか日々のケアを振り返り、掲げている身体拘束廃止宣言をもとにその都度話し合っている。	身体拘束をしないケアを実践すると共に、具体的な事例を基に学習を行っている。日頃から、利用者の行動制限や心の拘束をしないように話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時入居者の様子を見聞きしながら虐待がないか、見過ごされていないか、また、言葉の虐待はないか注意を払っている。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開き職員の中でも理解が深まるようにしている。そして必要な入居者がいないか注意している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず家族に来訪していただき充分時間をとって説明し医療についての契約や個人情報についての契約も文書で同意を得る様にしている。分かり易く質問しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートや意見箱を設置し意見が出し易いよう努めている。出された意見や要望は迅速にカンファレンスで話し合い常に家族と連絡を取り合い来訪時やお便りなどで問い合わせがし易い雰囲気作りをし運営に反映している必要に応じ運営推進会議でも話し合いが出来るようにしている。	家族の訪問時に意見等を聴いている。また、家族アンケートでも要望を把握している。意見・要望等は、職員会議で検討し、運営に反映させている。運営推進会議でも議題に取り上げ、対応策を話し合い改善をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の生活の中で気づいたこと、不便なことなど記録して、月1回ホームカンファレンスを開き意見が出し易いように努めている。	管理者は、月例の会議で職員から意見を聞いている。日常業務で気づいたことや個別の勤務調整、資格取得などを話し合い、改善につなげている。常に、職員の質の向上を目指した会議を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者・管理者が常に職員と接し状況把握に努め、また、コミュニケーションを充分にとつて必要に応じ職場環境整備改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で行われる研修に積極的に参加している。職員を把握しその職員に必要な研修を受けることが出来るよう配慮し、研修内容はカンファレンスで報告し、記録は全職員が閲覧し理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会、瑞穂市地域密着推進ネットワーク会議に所属し意見の交流をしサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り入居者の住居を訪れ生活状況を把握し、本人・家族と面談し要望や気持ちを汲み取るようにしている。少しでも本人の不安を取り除けるよう入居お試し期間を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との連絡を密に取りホームを見学していただきながら家族の意向や本人の家庭での様子や今までの暮らしぶりをゆくり聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談の中から現在の状況を踏まえて今一番必要なサービスが何かを考え本人の思い・家族の要望にも応えていけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が得意なことは職員が教えていただきながらともに作業を行ったり食事やレクリエーションを一緒にすることによって感情の共有ができるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りには担当職員が手書きで入居者個々の様子をお知らせし、行事の参加を呼びかけている。家族と共に支えていけるよう働きかけている。ケアプラン更新時にも状況をお知らせし協力をお願いしている。またお盆やお正月には家族で過ごすことができるよう勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも遊びに来れるようになってきている。また散歩時に親戚や馴染みの方の家にも行くことができるよう支援している。	馴染みの知人や地元の方がよく訪れている。散歩の行き帰りに、親戚や、知人の家に立ち寄っている。地元の催事に出かけ、知人に会えるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が食事や作業、レクリエーション等と一緒に行動することによって入居者同士のかかわりが上手いように配慮している。また一人ひとりに声かけをし会話することで孤立することがないように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転出や入院時は本人の状況・習慣・好み・これまでのケアの工夫等の情報を提供し同様なサービスを受けることができるようにしている。また、サービスの利用終了後も家族の方や退去者が気軽に安心して相談できる雰囲気作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話・様子・表情をよく観察し把握する。把握が困難な時は職員全体で検討しよりよい方法を考え、本人の視点に立って意見を出し合い本人の気持ちに寄り添い把握に努めている。	日々の会話や表情から思いや意向を把握している。困難な人は、寄り添う支援のなかで把握している。把握した思いや意向は、個別のケアに活かし、その人らしい暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居者との話の中で生活状況を常に把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの希望、生活スタイルにできる限り対応し本人の状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に全体でケースカンファレンスをし意見を交換し計画をたてている。介護計画更新時や必要時に毎回アセスメント、モニタリングをし本人の思い、希望の変化を把握している。	介護記録や気づきノートを基に、事例検討を全員で行っている。本人・家族、関係者の意見を聴くと共に、利用者の状態を、常にモニタリングして、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が情報を共有できるようケアの実践や気づいたことを入居者個々の介護ファイルに記録し、それに基づき介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々入居者一人ひとりの希望、状況に応じ必要な支援・サービスを提供している。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年6回以上の運営推進会議を開き地域住民との意見交流を行っている。また、年に2回近隣住民と防災訓練・救急法等を行い緊急時に備えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療に関する希望を聞いて文書で同意をもらい入居後も引き続き同医療が受けられるよう配慮、地域の病院内で本人や家族の希望を聞いてかかりつけ医を決めている。	契約時にかかりつけ医について説明をしている。本人・家族の希望で、ほぼ全員が協力医に変えている。協力医院への受診は、看護師が同行し、家族と連絡を取っている。また、他の病院への受診は、家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置していつでも連絡を取り合い相談できるようになっており、入居者の健康管理や状況変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入居者の支援に関する情報を提供し、医師からの説明を家族と共に聞くようにしている。また、職員はできる限り見舞いに訪れ速やかな退院支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の想いや家族の希望を把握して医療に関する契約書を作成している。また、同時にホーム内でできるケアについて十分説明し重度化した場合の対応について理解をいただいている。契約書は状況の変化に応じ常に再確認している。	重度化や終末期の対応について、利用者、家族と話し合い、合意している。医療対応が中心になった場合は、他に転居先を援助するなど、適切な支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に防災訓練や救急法講習を行って、入居者の急変や事故発生時に対応できるようにしている。また、事故対応マニュアルを作成し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署にお願いして消火器の使い方・救急法講習を行い、避難場所・経路等を確認し、全職員で連絡体制を整えている。また、災害訓練には地域の方々にも参加して頂き協力しあえるようにしている。	消防署の協力の下、夜間を含めた火災訓練を実施している。地域の協力体制も整い、訓練に参加を得ている。避難場所の確保や職員体制、関係機関との連携ができています。備蓄も完備している。	訓練は火災中心であるが、水害や地震を想定した対応についても検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格尊重、プライバシー確保、個人情報保護の徹底に努め、月1回ホーム内勉強会を行い職員の意識向上を図っている。	人生の先輩として尊敬し、言葉づかいに気を付け、人格を尊重した会話を交わしている。個人情報保護については、法令順守を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望が引き出すことができるように雰囲気作りに心掛け、選択肢を提供、提案し自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの思いや状態を配慮し、散歩時・外出時等は十分なコミュニケーションをとり一人ひとりのペースを大切に希望に添うことが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自己決定であるが、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう職員と一緒に考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に野菜処理等の準備を行い、調理方法やそれぞれの好みや力を活かし話し合いながら、より一層、食事が楽しみな時間となるようにしている。	事業所で採れた、旬の野菜を調理している。職員も同じ食事を食べ、利用者から調理方法を学んだり、楽しい時間を共有している。食材の下準備や配膳、片付けなどを、自ら進んで手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全体で情報を共有できるよう一人ひとりの食事量・水分量を記録し、毎日の献立は肉類、野菜果物、乳製品と色分けをし記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の能力に応じて口腔内の清潔を保つことが出来るよう声かけ、見守りしその都度援助が出来るよう努めている。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンに合わせた声かけをできるだけ不快な思いにさせない見守り・支援を心掛け、トイレ誘導を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、こまめに声かけ、トイレ誘導をしている。夜間もできる限り、トイレでの排泄を促し、オムツの利用は少ない。布パンツで過ごす期間が、長く維持できるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の生活の中で体操、散歩等体を動かすことを勧め野菜を中心とした食事摂取、十分な水分摂取ができるよう支援している。自然排便が困難な場合はその方にあった方法で援助対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を快適なものにするため出来る限り本人の希望に合わせた対応をしている。	入浴は原則、週に3回あり、個々の希望に添った対応で、個浴を楽しんでいる。季節にあわせ、ゆず湯、菖蒲湯、温泉の香などを使用している。入浴を好まない人には、誘い方を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して睡眠、休息が出来るよう生活のリズムを整え、日中の活動を促す支援、見守りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容確認と服薬確認の方法として処方箋ファイル、服薬シートを作成し服薬状態が速やかに把握できるようにしている。また、服薬時には内服薬の内容を説明をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に得意なこと出来そうな事を見つけ、行えるよう支援し感謝の言葉や励ましの言葉をかけるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り天候のよい日には戸外に散歩に行き、食事や買物も季節の行事に合わせて行っている。本人の希望があれば、家族の協力のもと個別に出かけることができるよう支援している。	日常は近隣を散歩し、自然の風景を楽しんでいる。買い物や外食に出かけたり、地域の行事にも参加している。年間計画で、桜や紅葉、バラ園などへ出かけている。	

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出買物時には商品を目で見て選び、小額のものとは自分で購入することができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ自分から電話をしたりかかってきた電話に出ることができるよう援助している。手紙を書くことが得意な方は郵送できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食欲をそそる料理の匂い、大きな窓から見ることができる花、野菜、果物で季節を感じ、対面式のキッチンで職員と会話を楽しむことができるよう配慮している。	共同の空間は広く、大きな窓から果樹園や野菜畑が見えている。季節を感じる爽やかな風が通る間取りである。空間には、懐しの歌を静かに流し、ゆったりくつろいでいる。季節の花を玄関や廊下に飾り、和やかな雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの大きなテーブルを囲み食事の時以外でも入居者同士で会話を楽しんだり、自由な席で一人の時間を思い思い過ごしたりできるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が心穏やかに快適に居心地良く過ごすことができるよう、以前から使用していた馴染みのものを使用したり、居室に持ち込むことができるようにしている。	居室の窓からは、近隣の日常が身近に見渡せる。居室には、使い慣れた筆筒、椅子など、家族と共に配置している。思い出の写真、記念の作品などを目線に掲示し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りのもと残存機能を活用していただくためトイレや廊下、浴室に手摺をつけ安全確保しつつ自立を支援している。		